

# 駒澤大学3-3東京国際大学

応援席に深々と頭を下げる駒大サッカー部(撮影:清村亮太)



ラスト1秒まで魅せた駒大魂  
今季リーグ準優勝でフィニッシュ

11月23日 13:50 東京国際大学坂戸キャンパス総合 G

駒大 3 (2-1) 3 東国大  
(1-2)

得点者 (アシスト)

[東]13分上船 [駒]26分若山(碓井)  
[駒]32分川岸(田中) [東]70分福島  
[東]80分若井 [駒]90+4分碓井

## KOMAZAWA

GK①大石健太(4)  
DF⑬大木 暁(3)  
DF④平尾優頼(3)  
DF⑮川岸祐輔(3)  
DF③田中雄一(4)  
MF⑥若山瞭太(4)  
MF⑦碓井鉄平(4)  
MF⑰平野篤志(2)  
(61分⑳立石忠之(2))  
(78分㉓糸井康裕(4))  
MF⑪小牧成亘(3)  
FW⑭中村駿(2)  
(55分⑱須貝暁(3))  
FW⑨小牟田洋佑(3)

## S U B

GK②野村孝政(4)  
DF②友廣壮希(4)  
DF⑤伊藤慎人(3)  
FW⑩山本大貴(4)

## MANAGER

秋田浩一

## TOUKOKU

GK㉑今野太祐(3)  
DF②伊東駿多(4)  
DF③阿部正紀(4)  
DF⑤川島將(4)  
DF⑳新地寿史兆(2)  
(63分㉒鹿糠智正(4))  
MF⑪高橋明嗣(4)  
MF⑭上船俊徳(3)  
MF⑩若井祥吾(3)  
(89分⑳岸卓弥(3))  
MF⑦小玉敏之(3)  
(76分㉒伊東翼(1))  
FW④加藤龍治(3)  
FW⑨福島遼(3)

## S U B

GK①上平雄二郎(3)  
DF④鈴木涼太(2)  
MF⑧清水亮平(4)  
MF⑮森竜哉(2)

## MANAGER

前田秀樹

[シュート]5:9 [GK]5:12 [CK]3:5 [直接FK]25:11  
[間接FK]5:0 [主審]八島佑太 [観衆]591人

警告(C) / 退場(S)

[駒]19分 碓井鉄平(c)  
[駒]88分 若山瞭太(c)

## 涙の天王山…今季リーグ閉幕

一部昇格決定後、二試合連続ドロローと雲行きの怪しい駒大。しかしライバルの不調もあり、最終節で優勝をかけた直接対決にもつれこんだ。天王山は制するのは果たしてどちらか。絶対に負けない戦いに駒大イレブンが敵地に足を踏み入れた。

前半、序盤から東国大にボールを支配される。13分、平尾が相手を押し与えたFKが直接決まり、先制点を献上してしまう。早い時間帯の失点に意気消沈しかけたが、ここから駒大の反撃が始まる。26分、碓井のふわっと浮かしたCKを若山が押し込み、1-1。同点に追いついた駒大は勢いづく。その6分後の32分、田中のCKを川岸が頭で豪快に押し込み、勝ち越しに成功。会場のボルテージが一気に上がる。その後も攻撃陣が果敢にゴールに迫るが、追加点は奪えず駒大得意のセットプレーで得た2点を守りきり、前半を2-1で折り返す。

後半序盤、どちらも熱を帯びた一進一退の時間が続いた。55分、先にこの苦しい時間を打ち破ったのは東国大だった。70分、相手と一対一の場面で大石が

キャッチしきれず落としたボールを押し込まれ、2-2。これに士気を震わせた駒大、77分だった。途中出場の糸井がFKからのクロスに合わせゴールネットを揺らした、がまさかのファールの判定で幻のボールとなる。ゴールが遠い駒大、80分にはPKを決められ勝ち越しを許す。ATは4分。駒大イレブンは最後の1秒まで魂のこもったプレーを見せてくれた。90+4分、PKを蹴る碓井の目には涙が浮かんでいた。そのPKがゴールに吸い込まれたと同時に、終了を告げるホイッスルが鳴り響いた。3-3で追いついたものの、得失点差により優勝は東国大の手に渡った。ピッチに倒れこんだ主将の姿が、駒大の敗北を痛いほど映し出していた。

駒大は2部準優勝、1部復帰という結果で今季リーグの幕を閉じた。惜しくも優勝は逃したが、駒大らしさが光った試合だった。試合終了後、全員で集合写真を撮る晴れ晴れしい笑顔がそれを物語っていた。来季は1部の舞台上で、駒大サッカー部が大きく活躍することを願っている。

(小金沢 遥)